

学校 教育 目標	【鶴見小学校学校教育目標】「つよいつよいつるみっ子」「力を合わせるつるみっ子」「まちが大すきつるみっ子」				
	(知)主体的に考え、身に付いた知識や技能を使ってよりよく課題を解決しようとする子 (徳)人を思いやるとともに、自分のよさや可能性に気付いて、様々な変化に柔軟に対応しようとする子 (体)継続的に運動に親しみ、健康でたくましい体をつくろうとする子 (公)まちの一員として自分の役割や働きに気付き、まちのために積極的に取り組もうとする子 (関)多様性を尊重し、新たな価値に気付き、よりよい生活を目指して行動しようとする子				
学校 概要	創立 92 周年	学校長 田中 昌彦	副校長 小笠原 洋平	2 学期制	一般学級: 29 個別支援学級: 9
	児童生徒数: 945 人		主な関係校: 鶴見中学校 豊岡小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	鶴見中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○自ら学びに向かう力 ・豊かにかかわる力 ・生きてはたらく知 ・生き方をよりよいものにしていく力	鶴見中学校 鶴見小学校 豊岡小学校	『力をあわせて、ともに歩もう』 自分のよさに気づき、愛するまちや人とともに、 自分の生き方を切り拓いていく児童生徒を育てます。 ・三校合同で児童生徒理解研修、教科研修、領域研修を行う。 ・9年間で育てる子どもの像 成長目標 を意識し、各校で研修を企画する。 ・体験入学や、部活動体験を行うことで、連携を深める。

中期 取組 目標	○身近な環境や自分についてのよりよい生活について考え、自分のよさや可能性に気付いて、粘り強く問題解決しようとする子を育てます。 ○多様な考えを交流し合い、友達と協同するよさに気付いて、集団生活を楽しいものにしようとする子を育てます。 ○まちで生活したり働いたりしている人々とのつながりを考え、まちのよさや人々の思いに気付き、まちへの思いを主体的に実現しようとする子を育てます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①教師の授業力指導力の向上への取組を継続していくとともに、子どもたちの表現力や話し合う力を高めるための取組を行っていく。②重点研究テーマ「自ら学びに向かう子どもの育成～子どもが自己を表現し、学び合う授業づくり～」とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に、課題意識や目的意識をもち活動に取り組んだり、社会と進んで関わろうとする子どもを育成する。
担当	指導部C	
徳	豊かな心	①スタートカリキュラムを軸として、重点研究を行っていく。学校全体で児童を見守っていく体制をつくる。 ②一人ひとりを大切に児童指導をし、自己肯定感を高める。 ③特別活動(学級活動、クラブ、委員会、異学年交流)で児童の自主的な活動を推進していく。 ④道徳のワークシートを統一・改善し、さらに蓄積していく。
担当	指導部A	
体	健康教育	①児童の運動の機会を増やせるよう、体育科の授業内容を工夫したり振り返りカードやアンケート等を活用したりして、児童の実態を把握しながら体力向上を図る。 ②健康診断前後や保健室に来室した際に、発達段階に合わせて視覚的な資料等を活用し、保健指導の充実を図る。 ③食育指導では、児童会による活動を計画し、年間を通して食に関する興味関心を高めたり栄養の知識を深めたりしていく。また、保健指導と食育指導を合わせて行い効果的な健康教育を進めていく。
担当	指導部B	
公開	自分づくり	①1・2年生は生活科を中心に、3年生以上は総合的な学習の時間等で地域の方やいろいろな職業の方とかかわる機会をつくり、体験的な活動を通して自分の可能性を広げることができるようにする。 ②行事や学習活動の振り返りのほかに、毎月振り返りができる機会をつくり自分の成長を実感したり、めあてをもって生活できるようにしたりする。自分づくりパスポートに蓄積していくことで、児童間や教師、保護者からの評価を自分の成長として自己評価できるようにする。
担当	指導部B	
いじめへの対応		①年に2回いじめアンケートを実施し、同時期に教育相談も実施することでいじめの積極的認知をさらに推進していく。 ②いじめの可能性のある案件に関しては、即時いじめ防止対策委員会を開き情報共有をする。 ③年2回YIPアンケートを実施し、学級風土づくりや学級経営に活用する。
担当	指導部A	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンター研修会に中堅教員が入り、研修の進め方についても支援を行う。メンター自身のためになり、過度な負担にならないメンター研修を目指し、改善していく。指導案検討は学年研究会で行うが、授業後の反省はメンター研で行う。 ②仕事の進め方や評価の仕方、あゆみの書き方など若手の職員が参考にしやすいように、メンター研などで提示してもらうことで、働き方改革の工夫と共有、人材育成を行っていく。
担当	指導部B	
特別支援教育		①教育のユニバーサルデザイン(環境・授業)について、引き続き学校全体で共通理解を図る。 ②iPadのアプリやキーボード入力等の各種機能を活用し、書きや視覚的な学習支援を図る。 ③個別支援学級の取組について一般級の児童が知る機会を設けるなど、個別支援学級と一般級の交流を推進する。また、個別支援学級と一般級の担任が密に連携を取り、児童と発達特性に関する理解、共有を図る。
担当	指導部A	
多文化共生		①子どもと保護者を受け入れる環境づくりを図る。やさしい日本語で配付物を作成したり、重要な配付物に印を付けたりして、保護者に分かりやすくする。 ②継続して、鶴見ひまわりと交流を図る。 ③日常の授業や食育、音楽等様々な教科で他国の文化に触れ、親しむ。外国籍児童、外国につながる児童が自身の国の文化を大切にできる機会を作っていく。
担当	指導部A	
GIGAスクール構想		①校内研修を充実させることで、児童のタブレット端末活用のスキルが向上するようにする。 ②育みたい力が身に付くようにするには、ICTをどのように活用するか検討する。 ③ICT活用の指導計画を設定し、学年ごとに指導内容を系統立てていく。
担当	指導部D	
地域学校協働活動		①幼保小の交流を少しずつできるように、連携する保育園(芦穂崎、すずらん)に連絡をし、年間を通してどのような交流を行うことができるかを検討する。 ②学校運営協議会で出された意見を職員に伝え、職員から伝えたい思いなどを委員の方に伝えることで、よりよい協働活動になるよう改善していく。
担当	指導部B	